



りんご生産情報 (3月号)

令和7年3月18日
J A つがる弘前
中央地区営農係

融雪材の散布は積極的に行い雪害を最小限にとどめ、雪消えを早めるようにしましょう。
野ネズミ被害が見られています。野ネズミ対策を積極的に行いましょう。

弘前アメダスでの積雪量は、3月13日現在で83cmとなっており、今後の気象状況にもよりますが雪消えやりんごの生態が遅れることが予想されます。

(参考:藤崎:95cm 和徳:100cm)

今後も雪解けとともに枝の裂開等が心配されますので、樹への被害を最小限にとどめるよう対策を講じましょう。

また、剪定作業など計画的に進め、4月の薬剤散布に備えてスプレーヤーの整備・点検はできるだけ早めに行い、剪定が遅れている園地では散布走路の確保に努めましょう。

	桜の開花日	りんごの開花日(藤崎)
平成24年	4月16日	5月9日
平成25年	4月22日	5月21日
令和3年	4月14日	5月3日
令和4年	4月14日	5月1日
令和5年	4月7日	4月27日
令和6年	4月14日	4月28日
平年	4月22日	5月8日

弘前公園の桜の開花は4月16日予想!

3月14日に日本気象協会が、第4回目となる桜の開花予想を発表しました。
弘前公園では、平年より6日早い4月16日に開花、21日に満開を迎える見込みです。
(昨年は弘前公園の開花が14日で平年より8日早くなりました。)
今後は気温が高くなる見込みで、りんごの生態も平年よりやや早くなると考えられます。
薬剤散布に間に合うよう、剪定作業を計画的に行いましょう。



《 雪害防止 》

雪解けとともに枝が沈み、裂傷、枝折れが発生しています。

今以上に被害が拡大しないよう対策を講じましょう。

- ・ 枝の引き上げ。
- ・ 埋まっている枝の周りの雪の層をスコップなどで壊す(雪層切断)。
- ・ 融雪材の散布は積極的に行う。



《 雪害を受けた樹への対応 》

1. 裂開が見られる園地では、永久支柱(丸太など)、カスガイ、ボルト、枝を持ち上げるための器具などを前もって準備する。
2. 接ぎ木用の穂や苗木を準備する。
3. 3分の2以上裂開している枝は見込みがないため剪去し塗布剤を塗る。
4. 胴樹の裂開部は、ユニボなどで裂傷部を持ち上げ、傷口を合わせる。
* このときに、裂傷部の樹皮がさらに剥がれたり切れてしまわないようバンドなどで裂傷部を締めつけてから持上げていくとよい。
5. 持上げてからカスガイやボルトで処置し、永久支柱などでしっかりと固定する。
(グラグラ動かないように!!)
6. 処置した部位には、バッチレートの塗布やシーバルテープなどを巻いてカルス形成を促す。
(乾燥しないように!!)また、枝量を少なめにして負担軽減を図り、必要な場合には橋接ぎを行う。
7. わい化で修復可能な枝は、紐で吊り上げ、裂開部をシーバルテープなどでしっかりと固定する。
8. わい化の側枝が欠損した場合は、潜芽から新たな枝が出るように芽傷を付け側枝の発生を促す。
また、側枝の欠損が多く回復の見込みがない場合は、切り返しを行い作り直すか、接ぎ木や新しい苗木を植える。



《 野ネズミ対策 》

- 【被害防止対策】
- ・ 幹の根元が見えるようになったら、幹の根元に殺ネズミ剤を投入しましょう。
 - ・ 根元の雪は数回に分けてしっかりと踏み固めましょう。
- 【樹幹を食害された場合】
- ・ 樹皮が幹周の1/4以上残っているものは早めにシーバルテープを巻くか、塗布剤を塗布しカルス形成を促す。
 - ・ ひどく食害されたものは植替えるか、盛土を行いカルスの形成を促し、可能なものは寄せ接ぎを行なう。

《 病害虫防除 》

粗皮削り 腐らん病の早期発見や、粗皮下に越冬するハダニやカイガラムシなどの害虫防除になりますので必ず行いましょう。

回数 散布量	散布時期	対象 病害虫	薬剤名及び 混合順序	倍 数	1,000 あたり薬量	防除上の注意
特別 散布	発芽前	サンホーゼカイ ガラムシなど	精製マシン油	50倍	20 (1缶)	サンホーゼカイガラムシが見られる園地で散布をしましょう(枝への寄生により樹皮が灰色、枝の切り口の外側が紫色になる症状や、果実の尻部に赤い斑点が見られる園地)。 【注意】発芽後に散布をすると、薬害を起こしますので注意してください。

《 マメコバチの保管について 》

令和7年4月9日(水)10日(木)9時から11時半までつがる弘前農協 和徳支店でマメコバチ保管作業を行います。昨年まで利用されていた方については、入庫案内文書が配布されますので詳細をご確認下さい。